

令和6年度 社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会事業報告

生活困窮者支援における食料支援や就労に向けた面接用スーツのレンタル、貧困スパイラルに陥らないための教育支援資金の広報を多言語で行うなどの他、様々な福祉分野における相談や訪問事業などに取り組みました。また、こうした事業を継続的に進めるためにも、事業の効率化に向けたDX化の推進や、当会の事業活動を支える人材育成、活動財源となる自主財源確保として寄附付き自動販売機設置の依頼などを積極的に進めました。

また、障がい者の社会参加と自立支援の一環として「オカザえもののパラ芸術祭2024」を開催し、障がいのある方々の作品を岡崎市社会福祉センター内で展示し、障がい者福祉の理解促進及び社会福祉センターの認知度アップを図りました。

こうした幅広い対象に向けた福祉支援活動に加え、大規模な地震の直後に水害にも見舞われた能登半島の支援活動も昨年度に引き続き行いました。職員の被災地支援活動に加え、能登半島地震ボランティアバスを3回運行し、45名のボランティアと一緒に被災地域の復旧・復興に向けた被災地支援ボランティア活動を行いました。

こうした自然災害は、近年増加傾向にあり、今後、「南海トラフ地震」の発生が常に注視されている中、能登半島地震での支援活動の課題を検討、整理したうえで「災害ボランティアコーディネーター養成講座」や「災害ボランティア支援センター開設・運営訓練」、「災害時応急対応講座」など、災害に強いまち、災害に強い組織を目指して体制整備の強化を図りました。

今後も、関係機関の皆様と連携・協力しながら地域とのつながりを深め、様々な福祉サービスを提供し、高齢者や、障がい者、子育て世帯等、生活に課題を抱えるあらゆる市民をサポートするため、全職員一丸となって地域福祉活動の推進に取り組んで参ります。

第1 重点取り組み事業の報告

【総務課】

事業総括1【法人組織体制の強化、計画的な人材育成】

- ・ 継続して取り組んでいるDX化は、社内申請資料をグループウェア機能を活用しデジタル化による業務効率化を進めることができた。また、職員の人材育成として、各種業務にも活用できるよう、雇用保険、年金、社会保険に関する研修と合わせて職員自身のファイナンシャルデザインについて学びの機会を設けた。
- ・ 令和6年1月に発生した能登半島地震の復興支援に当たり、当会主導により岡崎市よりボランティアバスを3回派遣することができた。
- ・ 寄附付き自動販売機の設置台数も市内外を合わせ50台を超え、協力していただける方々の社協への期待が大きいことを実感することができた。

事業計画	成果
1 DX化の推進 財務会計システムのクラウド化により、各課ごとに予算管理を行い効果的な事業運営に反映させる。 2 職員の人材育成 新規職員の採用など計画的な人材確保や人事評価、働き方改革、個人情報保護等の研修を実施するなどにより、継続した職員の人材育成を図る。 (1) 若年層向け社会保険研修 (2) 働き方改革研修 (3) 人事評価研修（評価者向け、一般職向け） 3 定年延長の円滑な運用 定年延長制度の初年度となる令和6年度において退職年齢を迎える職員の円滑な定年延長に向けた手続きを実施する。 4 被災地支援（令和6年能登半島地震） (1) ボランティアバスの運行を実施し、岡崎市から能登半島地震への復興支援ボランティアの活動支援を行う。 (2) 能登半島地震により被災地域にある社会福祉協議会の業務支援を、愛知県社会福祉協議会始め県下の社会福祉協議会と連携し、復興支援のための職員派遣を行う。 5 寄附による事業支援体制の整備 寄附付き自動販売機の設置を進めるとともに、社協が行う地域福祉事業を啓発し積極的な支援を求めていく。	グループウェアの機能を活用し、出張に関する申請など、電子決裁により承認行為が行える体制を整えた (1) ファイナンシャルデザイン研修にて社会保険を始めとした法定制度の研修を実施 (2) セクハラ・マタハラを中心としたハラスメント研修の実施 (3) 全体研修を年1回、評価者向け研修を年3回実施 該当者に対し、定年延長に関しての説明を実施 該当者2名、令和7年度定年延長勤務1名 (1) 能登半島地震復興支援ボランティアバスを計3回派遣 (2) 第1回 3日間（7月29～31日）ボランティア20名参加 第2回 3日間（8月20～22日）ボランティア10名参加 第3回 3日間（9月19～21日）ボランティア15名参加 寄附付き自動販売機 市内55箇所 令和6年度寄付総額 1,255,550円

【総務課】

事業総括2【災害時専門ボランティア・プロボノ養成講座】

被災地復興にあたり課題となった、専門ボランティア（石工技師）を被災地とマッチングすることができ、災害時の復興における専門ボランティアの重要性を再確認することができたが、東南海トラフ地震などの大規模災害時において、当会において災害ボランティア支援センターの運営をしつつ専門ボランティアの調整などの対応について課題があるため専門ボランティア・プロボノ養成講座の実施は見合わせることにした。

事業計画	成果
1 専門ボランティア・プロボノ養成講座の実施 (1) 全体講話 プロボノ講座の受講者と専門ボランティア講座の受講者に共通する災害支援の基本的な知識や活動を学ぶ内容で講話を実施する。 (2) 専門講話・演習 床板が外せない床下に潜り清掃する活動や屋根のブルーシート貼り、避難所の福祉的支援など各専門分野での講話や演習を選択制で実施する。 2 講座修了者に対するフォローアップ (1) 専門ボランティア・プロボノ用の公式LINEアカウントを作成し、修了者の登録と訓練や災害時に備え登録者の管理を行う。 (2) 災害ボランティア支援センター設置運営訓練に参加を呼びかけ、災害が発生した際のボランティアの動きについて訓練実施。	災害発生時に生じた家屋の被害への応急対応について、専門性のない人でも安全・的確に行う方法を学ぶための講座を実施。講師には能登半島地震被災地でも専門ボランティアとして活躍しているチームふじさん代表、藤野龍夫氏を迎え、「災害時応急対応講座」と題し講座を実施 開催日：8月17日、18日 参加者数：17日29名、18日27名 ※内容を変更して実施

※ プロボノ（pro bono publico 公益のために）とは 職業上のスキルや経験を生かして社会課題に取り組む社会貢献活動。例えば、弁護士がその知識で生活困窮者を無償で支援する、大工が被災地の建築物の応急処置（補修）を行うなどが挙げられます。

【生活支援課】

事業総括 1 【福祉サービス事業所との連携強化、手話通訳の担い手育成、手話通訳者の確保】（障がい 1 係）

手話通訳に係る人材については、新たに登録通訳者を 3 名増員できた。将来的な担い手の確保を目的として、学生向け手話講座も新規開催した。

市委託の相談支援事業所の 1 つとして地域の相談員を支える役割があるが、サービス利用計画の作成業務が増大し、年 4 回の事業所訪問となった。

事業計画	成 果
1 障がい者相談支援において、計画相談に加えて地域への取り組みを強化する。 (1) 事業所との勉強会の開催。(年 3 回) (2) 地域の相談支援事業所への訪問。(年 6 回) 2 手話通訳に係る人材の育成と確保 (1) 養成講座を通じた手話通訳の人材育成。 (2) 関係機関や当事者団体等と連携を図り手話通訳者の人材確保を図る。(1 名増)	(1)(2) 担当地域内の相談支援事業所を訪問し情報交換・助言を行った。年 4 回 (1 回/3 月) (1) 手話奉仕員養成講座 24 名受講 手話通訳ステップアップ講座 21 名受講 学生向け手話講座 3 名参加 (高校生) (2) 手話通訳者登録者 3 名増

事業総括 2 【権利擁護・虐待防止の普及啓発の強化】（障がい 2 係）

市内グループホームでの障がい者虐待が大きく報道されたため、基幹相談支援センターでは、障がい者の虐待防止を目的とした研修を強化し実施した。

事業計画	成 果
1 市民向け権利擁護講演会（年 1 回） 2 事業所向け権利擁護研修（年 1 回） 3 市受託相談支援事業所向け訪問研修（年 7 回程度） 4 福祉施設等向け権利擁護研修（年 6 回程度） 5 岡崎市障がい者虐待防止センターの運営	1 障がい者差別解消講演会・交流会(9/12) 118 名参加 2 虐待防止研修会（12/4）34 名参加 3 訪問事業所数 12 事業所 4 年 10 回実施 5 対応案件 396 件（昨年度 202 件） 虐待防止ネットワーク会議 年 6 回参加

事業総括 3 【成年後見制度の利用促進による権利擁護支援の充実】（成年後見支援センター）

成年後見支援センターでは、市民後見人養成研修が開始されることに併せて、出前講座や勉強会を通じた制度理解や普及啓発に力点を置いた。新たな担い手確保に向け、3士会以外の専門職への受任調整や社協法人後見からのリレーを取組んだ。

日常生活自立支援事業では、適切な制度利用を前提に成年後見制度への移管を積極的に行った。

事業計画	成 果
1 広報業務 (1) パンフレットの配布（配架 195 か所） (2) 出前講座（年 10 回） (3) 福祉施設等職員向け勉強会（年 2 回） 2 相談業務 (1) 制度等に関する相談窓口の周知（市民講演会 年 1 回） (2) 制度・申立て等に係る相談（新規件数年間 250 件） (3) 成年後見制度利用に係る弁護士等の専門職相談会（年 18 回） 3 受任調整の支援 (1) 適切な後見人候補者推薦のための受任調整会議（月 1 回） 4 新たな担い手の育成 (1) 市民後見人養成講座の開催 5 後見人への支援 (1) 親族後見人の活動支援（1 回） (2) 専門職後見人の活動支援（適宜） (3) 成年後見人等を含む関係者会議の実施（適宜） 6 日常生活自立支援事業 (1) 日常生活自立支援事業と成年後見制度の連携	(1) 配架 192 か所（昨年同数）その他各所へ 330 部配布 (2)、(3)参加者 285 名、内、出前講座参加者 120 部、施設職員向け勉強会参加者に 93 部のパンフレットを配布 (1) 市民権利擁護セミナー（市民後見人養成研修説明会）台風接近により中止。（申込者 44 名） (2) 新規相談件数 244 件 (3) 年 6 回（弁護士会 5 回、司法書士会 1 回） (1) 年 11 回 検討ケース 29 件 3 士会以外の専門職への受任調整 1 件 社協法人後見から他専門職へのリレー 1 件 (1) 岡崎市は、愛知県実施のオンデマンド型による市民後見人等養成講座（基礎編）を活用。市内 9 名の受講者があり、7 名が修了。 (1) 親族後見人フォローアップ研修(12/4) 6 名参加 (2) 成年後見人等への助言 46 件 実施 (3) 関係者会議・調整会議 223 件 参加 (1) 日常生活自立支援事業から成年後見制度への移管ケース 7 件（昨年度 1 件）

【介護課】

事業総括【業務の効率化、人材育成】

社会全体として、人材不足が大きな課題として現出している中、当課においては現在運用しているシステムのさらなる活用として、訪問から請求まで連動したシステム化に努めた。このシステムにより、訪問時の業務指示や利用者の状態などの情報共有を円滑に行うことができ、サービス向上にもつながったと考える。

また、システム運用が軌道に乗ることで業務改善も進み、職員のワークライフバランスの充実に繋がることとなった。

その他、登録ヘルパーの高齢化が進む中、人材確保として市内新聞店の協力により、ヘルパー募集のチラシを広範囲に渡り展開することができ、就業について多くの問い合わせをいただき、実際のヘルパー採用に繋げることができた。

事業計画	成果
1 職員のスキルアップ ヘルパー研修 年 12 回実施 介護課の使命と理念を打ち出す	ヘルパー定例会 4 回開催 ヘルパー研修 8 回開催 西三河ヘルパー研修参加 1 回
2 業務の効率化 業務システムの更新	介護保険システムとして運用している「ほのぼのNEXT」と連動する「ケアパレット」を導入し、ヘルパー間の連絡調整、業務報告などのシステム化を図った。
3 ヘルパー採用への取り組み (1) 社協だよりへの掲載の継続 (2) HP、SNSを活用した魅力発信 (3) 募集チラシの配布	(1) 年 2 回発行の社協だよりに募集記事を掲載 (2) 岡崎市社協HPにホームヘルパー募集記事の常時掲載を実施 (3) 市内新聞店の協力により募集チラシを市内各地に展開することができた
4 安定した保険収入の確保及び、保険収入の向上 (1) 介護保険利用者数 前年度同数 (2) 口腔ケア加算、喀痰吸引加算の取得	(1) 令和 6 年度実績 750 件 (前年比 △ 8 件) 利用回数の多い利用者の入所や入院などが重なったが新規受け入れも継続しマイナスは 8 件となった。 (2) 喀痰吸引加算取得に向けた介護員の技術研修受講修了には至ったが、加算取得に向けた課題が残るため取得には至っていない。

【地域支援課】

事業総括【地域づくり、生活困窮者支援の充実】

基幹型包括支援センターの業務の中で、市内20地域包括支援センターの人員交替等による虐待、困難ケースの対応スキルの低下を防ぎ、早期発見、適切な対応を維持する体制づくりの一貫から、虐待の事例検討、措置事例報告を実施した。参加者の経験値にばらつきがあったため、十分な研修内容とはいいがたいが、早期相談は増えている

経済的な事情による進学のを逃すことなく、安心して進路を検討する一助のため、教育支援資金の広報を市内全中学3年生の保護者へ実施。外国人世帯の貧困状況の情報収集では、明確な貧困の実態は明らかにならなかったが、情報弱者にならないために、広報の多言語化を図り、情報案内、外国人を対象とした進路説明会に参加。

はぴりんバンク（生活困窮者への食糧、日用品支援の仕組み）においては、個別支援に重点をおき、就労や通学支援のための自転車の譲渡を実施した。

事業計画	成果
1 高齢者虐待防止、ケース対応へのスキルアップ 地域包括支援センターの職員や、介護サービス事業所の職員のケースマネジメントおよび連携の強化を図る。事例検討年2回以上、虐待研修の実施 2 特例貸付利用者への支援、生活困窮者への広報 特例貸付利用者への相談支援等フォローアップ、教育支援資金の中学校への広報拡大、関係機関との連携強化 3 はぴりんバンクの充実、拡大 外国人の貧困の現状把握、寄付、募集方法の検討。ファミマフードドライブの拡大、個別支援の充実。事業の啓発、他機関との調整を図る 4 OKフードドライブの実施 常設型を広げることで、地域の中で支援していける仕組みを展開していく。フードドライブを通じた地域、企業等の共同、地域づくりを実施。	1 年4回事例検討、措置事例報告実施 居宅部会にて虐待研修実施 2 特例貸付償還猶予の延長が決定した借受人162人に対し、電話、面談、郵送にて相談勧奨、相談を実施。 市内20中学校全中学3年生保護者へチラシ案内。多言語（6言語）翻訳の制度チラシを作成、学校、HP、多様性社会推進課を通じ、案内。外国人世帯の進路説明会に参加。 ひとり親教育費セミナー、スクールソーシャルワーカー定例会議、定時制通信制説明会参加、事業案内を実施。 市政だよりの毎月の相談ページに掲載。 3 外国人貧困状況調査実施（貸付の外国人相談状況確認、生保申請状況、関係機関への聞き取り） ファミマフードドライブ7店舗、月2回収 ひとり親生活困窮 52世帯×4回、スーツレンタル整備、就労や通院等支援のための自転車譲渡を実施。 4 全地域福祉センターに常設型を設置。 矢作学区では、企業、大学・高校生・中学生・民生委員・学福・地域包括支援センター・市・社協が協働し、年2回実施。

【額田支所】

事業総括【地域共生社会の推進と介護事業の見直し】

岡崎市内でも特に高齢化が進んでいる額田地域において、移動が困難な方々のニーズに応えるため、福祉車両の貸出を継続的に実施しました。特に額田全域において、地域の課題を地域の力で解決する仕組みを構築する取り組みに力を注ぎました。これにより、地域全体で支え合える環境を目指した活動を推進しました。

また、高齢者支援だけでなく、子どもや若者に関する課題にも対応しました。子ども食堂への後方支援を行い、複合的な課題を抱える家庭に対する相談や、検討会を実施しました。これらの活動を通じて、多職種が連携して包括的な支援を提供する体制強化が図られました。

介護保険事業においては、効率化を進め、ケアプラン作成数が前年度の実績を上回る成果を達成しました。また、訪問介護では、他の事業所が存在しない地域で高齢化が進む中、障がい利用者が高齢化に伴い介護保険の利用者へ移行することにより、利用者数が大幅に増加しました。

事業計画	成果
1 地域課題を共有し、一体的な地域福祉推進体制の強化 (1) 地域支え合い福祉車両貸出事業を実施し、ニーズのマッチングと運転ボランティア支援を行う。 (2) 年2回の地域協議会の開催 年2回のOKフードドライブを実施し寄付金を個別に届ける支援を実施する。	(1) 下山地区にてモデル事業を実施。 受診・買い物・学生の送迎など77件129名の利用実績となった。 (2) 年2回の地域協議会を開催し、延べ49名の参加者により地域のニーズの把握に努めた。 地区民協にて民生委員を中心に額田福祉団体関係者それぞれが把握する困窮世帯への個別配布を実施した。また、ぬかたふるさとまつりではPRを兼ねて寄付食材の配布をし、年間2回のフードドライブを実施した。
2 介護保険事業の業務効率化 (1) 訪問介護事業のICT化	(1) 導入が定着し、ペーパーレスが定着した。確認作業もなくなり、月末の残業時間を削減できた。
3 誰もが役割を持って参加できる居場所作りを推進する (1) 子ども食堂未実施学区での開催支援	(1) 既存の食堂4箇所に加えプレ開催1箇所計5箇所の子ども食堂の立ち上げや継続を支援した。

第2 継続事業の報告

1 組織運営に関すること

(1) 理事会開催状況

ア 令和6年 第3回理事会

開催日：令和6年6月10日（月）午前10時～

場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

報 告：評議員の選任について

会長及び常務理事の職務執行状況について

令和5年度一般会計補正予算（第5号）の専決処分について

議 案：評議員の推薦について

評議員選任解任委員の選任について

令和5年度事業報告及び収支決算について

令和6年度一般会計補正予算（第1号）

評議員会の開催について

イ 令和6年 第4回理事会

開催日：令和6年12月10日（火）午前10時～

場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

報 告：評議員の選任について

会長及び常務理事の職務執行状況について

議 案：評議員の推薦について

評議員選任・解任委員会の選任について

賃金規程の一部改正について

令和6年度一般会計補正予算（第2号）について

評議員会の開催について

ウ 令和7年 第1回理事会

開催日：令和7年3月18日（火）午前10時～

場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

報 告：評議員の選任について

会長及び常務理事の職務執行状況について

議 案：評議員の推薦について

事務局規則の一部改正について

就業規則の一部改正について

賃金規程の一部改正について

旅費に関する規則の一部改正について

令和6年度一般会計補正予算（第3号）について

令和7年度事業計画及び収支予算について

評議員会の開催について

エ 令和7年 第2回理事会（書面決議）

開催日：令和7年3月31日（月）

議 案：経理規程の一部改正について

常務理事の推薦について

(2) 評議員会の開催状況

ア 令和6年 第2回評議員会

開催日：令和6年6月25日（火）午後2時～

場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

報 告：令和5年度一般会計補正予算（第5号）の専決処分について

議 案：令和5年度事業報告及び収支決算について

令和6年度一般会計補正予算（第1号）について

- イ 令和6年 第3回評議員会
開催日：令和6年12月17日（火）午後2時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
議 案：令和6年度一般会計補正予算(第2号)について
- ウ 令和7年 第1回評議員会
開催日：令和6年3月25日（火）午後2時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
議 案：令和6年度一般会計補正予算（第3号）について
令和7年度事業計画及び収支予算について
- (3) 評議員選任・解任委員会開催状況
- ア 令和6年 第2回評議員選任・解任委員会
開催日：令和6年6月10日（月）午後1時30分～
場 所：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
議 案：評議員の選任について
- イ 令和6年 第3回評議員選任・解任委員会
開催日：令和6年12月10日（火）午前11時30分～
場 所：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
議 案：評議員の選任について
- ウ 令和6年 第1回評議員選任・解任委員会
開催日：令和7年3月18日（月）午後1時30分～
場 所：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
議 案：評議員の選任について
- (4) 監査の開催状況
開催日：令和6年5月31日（金）午前10時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室A
内 容：令和5年度事業報告について
令和5年度一般会計決算について
令和6年3月31日現在の財産目録及び貸借対照表について
- (5) 組織体制の強化
外部講師を招き研修を開催し、職員の資質向上・人材育成に努めた。
- ア ハラスメント研修
会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
講 師：よつば労務管理事務所 社会保険労務士 永谷 律子 氏
- | 開催日 | 研修内容 |
|--|---|
| 令和7年2月 4日（火）
令和7年2月13日（木）
令和7年2月18日（火） | セクシュアルハラスメント
マタニティハラスメントを考える
～働きやすい職場環境を目指して～ |
- イ 人事評価職員研修
会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
講 師：あおいと創研株式会社 中小企業診断士 森 正樹 氏
全体研修
- | | |
|--------------|----------|
| 令和6年4月18日（火） | 人事評価全体研修 |
|--------------|----------|
- 評価者研修
- | | |
|---------------|-----------------|
| 令和6年 4月24日（水） | 人事評価管理者研修（期首面談） |
| 令和6年 8月 9日（金） | 人事評価管理者研修（中間面談） |
| 令和6年11月25日（月） | 人事評価管理者研修（期末面談） |
- ウ 社会保険研修

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
講 師：社会保険労務士 寺田 浩文 氏

開催日	研修内容
令和6年 9月 3日 (火)	給与明細から見た社会保険
令和6年 10月 15日 (火) 令和6年 10月 21日 (月)	ファイナンシャルデザイン研修

エ 管理職研修

開 催 日：令和6年 10月 3日 (木)

講 師：株式会社グランツハート 松井 浩恵 氏

2 福祉団体助成事業

法外援護事業

この事業には、共同募金配分金及び歳末たすけあい募金を用いて実施。

ア 低所得者援護

- (ア) 就学援助対象者などへの QU0 カード配付 (6,801,000 円)
- (イ) 生活保護・準援護世帯の小・中学校児童生徒に進学支度金 QU0 カード配付 (1,052,530 円)

イ 児童福祉

- (ア) 保育園卒園児に対する卒園記念品の支給 (350,000 円)
- (イ) 保育園連絡協議会・保育園父母の会に対する活動助成 (705,532 円)

ウ 障がい児(者)福祉

- (ア) 身体障がい児(者)、知的障がい児(者)等団体への活動助成 (882,338 円)

エ 高齢者福祉

- (ア) 学区敬老会行事に助成 (8,400,000 円)
- (イ) 老人クラブ連合会に対する活動助成 (450,000 円)

オ 地域福祉

- (ア) 民生委員児童委員連絡協議会への活動助成 (1,079,000 円)
- (イ) 学区福祉委員会への活動助成 (6,028,000 円)
- (ウ) 地域活動に対する活動助成 (586,000 円)

カ その他の援助

- (ア) 戦没者慰霊行事への活動助成 (230,000 円)
- (イ) 保護司会・更生保護女性会・ボランティア団体への活動助成 (378,000 円)
- (ウ) 民間保育園・民間幼稚園に対する設備助成 (479,600 円)
- (エ) 福祉施設運営助成 (542,000 円)
- (オ) ハッピーリンク助成 (803,400 円)

3 広報・啓発事業

(1) 機関紙の作成頒布

「おかぎきの社協」を年2回発行し、全世帯へ配布した。社協のマスコットキャラクター「はぴりん」を有効活用し、見やすい紙面づくりを心掛けて作成した。

発行月	発行部数
令和6年 9月号	155,400 部
令和7年 3月号	155,400 部

(2) ホームページ・SNS による情報提供

イベント情報や、サービス内容の発信を行うとともに、Facebook、X、Instagram を活用した各種情報の提供を行った。

(3) マスコットキャラクターを利用した広報活動

岡崎市社会福祉協議会応援団に就任したオカザえもと協力し当会事業の啓発活動を行った。

(4) 他市町村社協との連携強化、広報活動

他市町村社協との連携を深めるため西三河ブロック社会福祉協議会事務局長・担当者会議及び総務担当者会議に出席し、西三河社協間の情報共有・交換に努めた。

4 第4次岡崎市地域福祉計画の推進

第4次岡崎市地域福祉計画期間の3年目となり、希望する学区で計画の評価・分析を行うミソ端会議を実施した。

(1) 小学校区での福祉座談会（ミソ端会議）

第4次岡崎市地域福祉計画内に掲載されている学区(地区)別計画の進捗管理を目的として、学区福祉委員会を始めとした地域住民を対象に福祉座談会を実施した。

令和6年度分の実施状況

単位：名

学区	開催開催日	開催場所	参加数
緑丘	令和7年1月11日(土)午後1時30分～	市民ホーム	20
六ツ美中部	令和7年1月11日(土)午後2時00分～	市民ホーム	29
根石	令和7年1月13日(月)午後3時15分～	市民ホーム	7
六ツ美西部	令和7年1月14日(火)午前10時00分～	市民ホーム	14
美合	令和7年1月18日(土)午後2時00分～	市民ホーム	26
河合地区	令和7年1月18日(土)午後7時00分～	市民ホーム	20
六ツ美南部	令和7年1月19日(日)午後5時00分～	市民ホーム	22
細川	令和7年1月21日(火)午前10時00分～	市民ホーム	20
竜谷	令和7年1月22日(水)午後1時30分～	愛厚ホーム岡崎苑	25
下山	令和7年1月26日(日)午後1時30分～	市民ホーム	5
上地	令和7年2月1日(土)午後4時00分～	よりなん防災活動室	10
常磐南	令和7年2月2日(日)午後6時00分～	市民ホーム	18
井田	令和7年2月4日(火)午後2時00分～	市民ホーム	34
愛宕	令和7年2月8日(土)午前10時00分～	市民ホーム	15
岡崎	令和7年2月8日(土)午前10時00分～	市民ホーム	38
城南	令和7年2月9日(日)午前10時00分～	市民ホーム	18
六ツ美北部	令和7年2月9日(日)午後2時00分～	市民ホーム	21
小豆坂	令和7年2月15日(土)午前10時00分～	社会福祉センター	15
北野	令和7年2月15日(土)午後2時00分～	市民ホーム	20
梅園	令和7年2月20日(木)午後2時00分～	市民ホーム	10
矢作東	令和7年2月20日(木)午後7時00分～	やはぎかん	11
竜美丘	令和7年3月2日(日)午前10時00分～	市民ホーム	19
矢作南	令和7年3月15日(土)午後14時45分～	市民ホーム	13

(1) 地域福祉計画事業検討部会の開催

岡崎市と協働で作成した「第4次岡崎市地域福祉計画（計画期間：令和4年度～令和8年度）」推進のため、地域における課題や現在の取組状況についてテーマを定め、事業の検討を行う事業検討部会を設置した。市内の学識経験者、関係団体、大学から委員を構成し、意見交換を図り事業の適正な運営と改善に向けた検討を行った。

ア 第1回

開催日：令和6年5月29日（水）午後5時～7時

会 場：岡崎市役所別館 3階大会議室

内 容：人と人とのつながりを実感できる地域づくりについて

出席者：委員 13 名、岡崎市福祉部ふくし相談課 3 名、当会（総務課 6 名、地域支援課 2 名）

イ 第 2 回

開催日：令和 6 年 9 月 18 日（水）午後 5 時～7 時

会 場：岡崎市社会福祉センター 2 階 多目的室

内 容：20～50 代世代を孤立させない取り組みについて

出席者：委員 12 名、岡崎市福祉部ふくし相談課 5 名、当会（総務課 5 名、地域支援課 2 名）

ウ 第 3 回

開催日：令和 7 年 1 月 15 日（水）午後 5 時～7 時

会 場：岡崎市役所 福祉会館 6 階

内 容：第 1 回、第 2 回まとめ など

出席者：委員 12 名、岡崎市福祉部ふくし相談課 5 名、当会（総務課 5 名）

5 学区福祉委員会支援

(1) 活動支援

小地域福祉活動の要となる組織として、市内 46 学区（一部中学校区）に学区福祉委員会が設立された。学区福祉委員会活動における様々な悩みや課題に対し、支援等を行った。

(2) 学区福祉委員会の主な活動内容

ア 高齢者等見守り激励訪問活動

ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯等に対する安否確認と見守り活動

イ 高齢者や世代間交流による会食会の開催

会食会を通し、地域で世代を超えた交流やひきこもり防止のための外出を支援

ウ 広報紙「福祉委員会だより」の発行・ホームページや SNS の作成及び更新

地域住民に広く学区福祉委員会への周知と、地域福祉活動への理解と福祉委員会への参加を呼びかける

エ ふれあいサロン、いきいきクラブ、健康教室などの開催

社会的孤立感の解消を目的とした居場所づくり、介護予防や介護のノウハウを学ぶ機会づくり

オ 子育てサロンや登下校時の見守り活動

子育て中の親子が集える機会や場所の提供、子どもの成長と安全を見守る支援

カ 各種研修や講座の企画・開催

活動をする中で必要な知識や情報を習得する研修会や講座の開催。先進的な取り組みをしている市内・市外の活動を視察

(3) 学区福祉委員会への活動支援と地域担当者との情報共有

ア 学区福祉委員会定期総会・役員会などへの出席（役員会などは随時出席）

イ 学区福祉委員会への講演、研修指導など。学区からの要望に応じて実施

（六ツ美北部、六ツ美中部、六ツ美西部、緑丘、河合、上地、竜谷、小豆坂、連尺、羽根、豊富、竜美丘大西一区白鳥サロン）

(4) 学区福祉委員会向け講座の実施

学区福祉委員会、各部会に向けての講座や研修会を開催した。

ア 委員長研修会

委員長が共通で学ぶことができる地域福祉、学区福祉委員会の在り方、補助金の使い方、また委員長同士の交流を目的とする。

開催日：令和 6 年 6 月 21 日（金）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

会 場：岡崎市社会福祉センター 2 階 多目的室

テーマ：福祉委員会に寄せられた、地域住民の様々な相談事や悩み事を、どこに相談・繋ぐのか。各学区福祉委員会委員長によるトークセッション

講師：なし

対象者：各学区福祉委員会委員長

参加数：38名

イ 広報研修部会向け研修会

南生協の「おたがいさま運動」、研修会を企画立案するポイントなどのノウハウを学び、実践者を交えた質疑応答、情報交換を目的とする。

開催日：令和6年10月25日（金）・22日（金）午後1時30分～

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

テーマ：南生協さんに学ぶ！研修会を企画立案する研修

講師：南医療生活協同組合 副理事長 松下 繁行 氏、地域ささえあいセンター 濱中 壮太郎 氏

対象者：学区福祉委員会（広報研修部会）参加数：35名

ウ 在宅福祉部向け研修会

見守り訪問活動についてのポイント、みんながいきやすい地域づくりについて学ぶことを目的とする。

開催日：令和6年8月2日（金）午後1時30分～3時30分

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

テーマ：やさしく見守る力、ゆるやかな関わりについて

講師：NP0法人コネクトスポット 山下 祐司 氏

対象者：学区福祉委員会（在宅福祉部会、見守り活動担当者）参加者数：32名

エ ふれあい部会向け研修会

エムボットの操作を体験することで、地域のサロンや世代間交流活動の活性化につながる方法について学ぶことを目的とする。

開催日：令和6年7月26日（金）午後1時30分～3時30分

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

テーマ：子どもから大人までワクワクしながら取り組めるエムボット体験会

講師：株式会社岡崎情報開発センター 所長 齋藤 理彦 氏

オ 地域福祉リーダー養成塾

安心して暮らせるまちづくりをめざす地域福祉活動において、重要な位置にあたる学区福祉委員会やボランティア団体をまとめるリーダーとして求められる、ビジョンの作成や啓発、実践、またリスク管理など組織運営のポイント及び、新たな活動を立ち上げ、取り組みを始めた実践者からのノウハウを学ぶとともに、市内の地域福祉活動に取り組んでいる受講者間での交流を通じ、社会環境が目まぐるしく変化する中においても柔軟かつ活発な地域福祉活動を推進できるリーダー的な人材を養成する目的で実施した。16名修了。

1日目	開催日：令和7年1月22日（土）午後1時30分～4時50分 会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室 テーマ：1限 グループワークが好きになれる合意形成&ファシリテーション講座 2限 グループワークのファシリテーターを実際に行ってみよう 講師：パブリック・ハーツ（株）代表取締役/名古屋学院大学現代社会部准教授 水谷 香織 氏
2日目	開催日：令和7年3月15日（土）午後1時30分～3時30分 会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室 テーマ：地域福祉ボランティア活動で起きやすいトラブルについて

	講 師：加藤法律事務所 弁護士 加藤 佑 氏
--	------------------------

- (5) 学区福祉委員会へ広報紙の発信
学区福祉委員会へ年1回の広報紙「福祉かわら版」を発信し周知した。
第35号 発行日：令和7年3月11日 連絡会にて配布
- (6) 学区福祉委員会補助金「会計確認」の実施
市の補助金並びに共同募金配分金が適正に処理されているか、また運営上有効に使われているかを確認するため、46学区福祉委員会すべてにおいて「会計確認」を実施した。9支所管内ごとに日程や会場を設定し会計確認を実施した。

6 学区福祉委員会連絡協議会主催事業の支援

- (1) 学区福祉委員会連絡協議会
学区福祉委員会相互の連絡調整や情報の共有化を図り、学区の福祉活動を推進することを目的とし実施した。

ア 役員会

- 第1回 開催日：令和6年5月30日（水）午後1時30分～
会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
議 題：総会に諮る議案の確認
- 第2回 開催日：令和7年2月19日（水）午後1時30分～
会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
議 題：連絡会の議題と資料の確認について

イ 総 会

- 開催日：令和6年6月11日（火）午後1時30分10時～
会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
議 案：事業報告、新役員選任、事業計画等

ウ 連絡会

- 開催日：令和7年3月11日（火）午後1時30分～
会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
議 題：補助金実績報告、補助金交付申請、次年度事業予定等

- (2) 語ろう会（学区福祉委員会連絡協議会主催）

ア 事前打合せ（担当役員）

- 1回目 令和6年6月25日（火）午後1時～午後2時10時
岡崎市社会福祉センター
- 2回目 令和6年7月31日（水）午後1時30分～午後2時30分
岡崎市社会福祉センター
- 3回目 令和6年8月9日（金）午後1時30分～午後2時30分
岡崎市社会福祉センター

イ 開催内容

1回目	～在宅福祉活動の担当者あつまろまい～ 開 催 日：令和6年8月23日（金）午後1時30分～3時30分 会 場：社会福祉センター 2階 多目的室 テ ー マ：マップが役立つ見守り活動 事例発表：男川学区福祉委員会 委員長 佐藤 一美 氏 形埜学区福祉委員会 委員長 天野 秀子 氏 担当役員：天野副会長、小田事務局長、佐藤幹事
2回目	～ふれあい活動の担当者あつまろまい～ 開 催 日：令和6年9月27日（金）午後1時30分～3時30分 会 場：社会福祉センター 2階 多目的室

	テ ー マ：近所に子ども食堂がオープン！地域との関わりや支援などについて 事例発表：小豆坂学区福祉委員会 委員長 畔柳 敏彦 氏 竜谷学区福祉委員会 委員長 長坂 正行 氏 担当役員：長坂会長、長坂幹事、林幹事
3 回目	～広報・研修活動の担当者あつまろまい～ 開 催 日：令和 6 年 10 月 4 日（金）午後 1 時 30 分～3 時 30 分 会 場：岡崎市社会福祉センター 2 階 多目的室 テ ー マ：学福を地域住民に広く知ってもらうためにはどうしよう 講 師：岡崎ビジネスサポートセンター 松田 広宣 氏 担当役員：梅田副会長、川澄副会長、渡辺幹事

7 重層的支援体制整備

(1) 伴走型支援業務

岡崎市に設置された福祉総合相談窓口にて、複合課題を抱えながら必要な支援が届いていない世帯や本人に対する支援や、アウトリーチ等を通じ、本人のニーズや課題を把握し、福祉課題を抱えた方々に必要な支援が届く支援体制整備に取り組んだ。また、地域福祉の学びとして地域住民向けに「地域福祉講座」、支援者向けに「学び場つながる場」を開催。その他、岡崎市と連携しフードドライブを実施した。

ア アウトリーチ：延人数 198 名（新規 34 名、終結 42 名）

参加支援：延人数 99 名（新規 11 名、終結 7 名）

イ 対応件数属性分類

単位：件

<対象者属性>				
65 歳以上	0～39 歳	ひきこもり	生活困窮	障がい(精神) ※高次脳含む
2	351	178	220	571
障がい(知的)	障がい(身体)	障がい(疑い)	指定難病	司法関係
102	99	157	60	32
<世帯属性・特徴>				
高齢者を含む	障がい(疑い) を含む	生活困窮	生活保護	ひとり親
172	1060	268	509	357
8050 的	ゴミ屋敷	養育環境	その他	外国人
140	193	16	4	0

※重複あり

(2) 地域福祉講座・学び場つながる場の実施

身近な福祉課題を取り上げ、現状や課題を学ぶ機会として、3 回の講座を実施。

地域福祉講座は、地域住民が「誰もが無意識な偏見・思い込みを持っていること」を知り、それが障害者への偏見や差別につながっていることに気づくことができる講座を開催。

学び場つながる場は、個別の支援から地域づくりを推進するために、問題発見能力や問題抽出、課題形成、解決など地域福祉に関わる人材の実践力向上を目指した講座を実施した。

地域福祉講座 講義&ワークショップ

開催日：令和 6 年 8 月 24 日（土）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

会 場：岡崎市福祉会館 6階大ホール
テーマ：知らずに差別？アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）の秘密にせまる
講 師：人間環境大学 心理学部 心理学科 講師 和田剛宗 氏
対象者：一般市民、総代、民生児童委員（主任児童委員）、学区福祉委員、民間企業、社会福祉分野に携わっている方
参加者：89名

学び場つながる場 講義&ワークショップ
主テーマ：「ソーシャルアクションを楽しく学ぼう 課題を見つける力をミガク」
講 師：とよた多世代参加支援プロジェクト事務局長 栗本 浩一 氏
対 象 者：福祉事業所職員、市民活動団体メンバー、地域福祉課題の解決に関心のある方々（企業含む）

第1回 地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークを考えよう、少人数ワーク
開催日：令和6年9月14日（土）午前9時30分～午後12時30分

会 場：岡崎市社会福祉センター2階 多目的室
参加者：34名

第2回 豊田で始めた”掛け合わせ”のプラットフォームの現状報告、事例検討
開催日：令和6年10月1日（火）午後1時30分～3時30分

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
参加者：38名

(3) 重層的支援体制整備（フードドライブ）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、生活が厳しくなった生活困窮者への支援を岡崎市と連携し実施した。

ア 第1回（実施主体：ふくまど、OK フードドライブ実行委員会）

協 力：岡崎市、岡崎市社会福祉協議会

実施期間：令和6年5月9日（木）

支援物品：米

イ 第2回【支援品受付】（実施主体：岡崎西高校 PTA、OK フードドライブ実行委員会）

協 力：岡崎市、岡崎市社会福祉協議会

実 施 日：令和6年5月17日（金）

回収場所：愛知県立岡崎西高等学校

回収物品：食料品

ウ 第3回（実施主体：愛知学泉大学、OK フードドライブ実行委員会）

共 催：岡崎市、岡崎市社会福祉協議会

協 力：フタバ産業株式会社、マルヤス工業株式会社、FC マルヤス岡崎、三菱自動車工業株式会社、三菱自動車エンジニアリング株式会社、矢作北地区民生委員・児童委員協議会、はしめ地域包括支援センター、やはぎ苑地域包括支援センター、西部地域包括支援センター

実 施 日：令和6年6月22日（土）配布場所：愛知学泉短期大学

支援物品：食料品・日用品等（企業や個人からの寄付品）300 セット予定、212 セット配布

エ 第4回【支援品受付】（実施主体：愛知学泉短期大学、OK フードドライブ実行委員会）

共 催：大仏山・玉泉寺、矢作圏域包括支援センター、岡崎市環境部ごみ対策課、岡崎市福祉部ふくし相談課、岡崎市社会福祉協議会

実 施 日：令和6年11月7日（木）

回収場所：玉泉寺

回収物品：食料品、日用品、本等

オ 第5回（実施主体：愛知学泉短期大学、OK フードドライブ実行委員会）

共 催：岡崎市、岡崎市社会福祉協議会

協 力：フタバ産業株式会社、マルヤス工業株式会社、三菱自動車工業株式会社、三菱自動車エンジニアリング株式会社、矢作北地区民生委員・児童委員協議会、矢作北中学校、矢作北小学校、はしめ地域包括支援センター、やはぎ苑地域包括支援センター、西部地域包括支援センター

実 施 日：令和6年11月30日（土）

配布場所：愛知学泉短期大学

支援物品：食料品、日用品等（企業や個人からの寄付品）配布予定数 300 セット
ト配布数 300 セット

(4) 重層的支援体制整備事業（額田福祉総合相談窓口「ふくまど」）

岡崎市額田センター・こもれびかん内に、額田地域包括支援センターと連携し、額田地域の世代や属性、相談内容に関わらず包括的に相談を受け止める福祉相談窓口「ふくまど」を設置。重層的支援事業の伴走型支援として、アウトリーチ等を通じた継続的支援、参加支援事業を行い、介護、障がい、子育て、生活困窮など既存の制度単体では対応が困難なケースに対して、関係機関と協力し継続的に本人や家族等に働きかけするなどして支援を実施した。また、必要な支援が届いていない人へ支援を届けるため、地域との関係づくりに取り組んだ。

ア 福祉総合相談窓口

(ア) 新規相談等

受付人数 120 人。福祉総合相談窓口「ふくまど」の機能紹介と、地域活動や地域福祉に関する様々な情報発信などを掲載する「ふくまど通信」を年2回（4月、10月）各 500 部作成し、額田地区全戸への回覧をすると共に、地域へのアウトリーチの際に個別に配布した。また、地域住民に対し福祉の相談窓口であることを幅広く周知するとともに、困った時にすぐに連絡できるよう、「ふくまどステッカー」を継続して配布した。更新頻度に課題があるものの「ふくまど Instagram」も活用し、情報発信や周知に努めた。

そして、「地域共生社会の実現」をテーマに、以下事業所等とぬかたふるさとまつりへブース出店し、多くの方の来場があり、様々な福祉活動を周知する機会となった。

授産品販売（愛恵協会てんじん）

キッチンカー子ども食堂（匠や）

福祉車両とサウナカー展示・体験（愛知ダイハツ）

YAMABIKO 青空市（岡崎市下山学区地域づくり協議会）

OKフードドライブ（岡崎市）

赤い羽根共同募金（岡崎市共同募金委員会）

(イ) 地域協議会の開催

額田地区の人と人、人と資源が世代や分野を越えてつながることで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく地域共生社会を目指し、額田地域全体で情報共有や意見交流をすることを目的に地域活動者、福祉・介護従事者、行政等に呼びかけ「地域協議会」を開催した。

a 第1回地域協議会

開催日：令和6年7月23日（火）午後2時00分～3時30分

会 場：岡崎市額田センターこもれびかん 集会室A・B

テーマ：認知症になっても安心して暮らせる地域づくりについて

内 容：認知症サポーター養成講座

事例から考える額田地区の繋がりを見守り、今後について（グループワーク）

参加者：額田5学区の総代会長、各学区社教委員長、各学区福祉委員長、民生委員児童委員正副会長、地域医療機関、基幹型地域包括支援センター、福祉関係事業所（高齢者施設、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所）、岡崎市職員 計27名

その他：アンケート実施

b 第2回地域協議会

開催日：令和6年12月4日（水）午後2時00分～3時00分

会場：岡崎市額田センター こもれびかん 集会室A・B

テーマ：「地域の先駆的事例から学ぶ」～岡崎市下山学区地域づくり協議会の取り組み～

発表者：岡崎市下山学区地域づくり協議会 生活支援部会長 杉浦 圭 氏
岡崎市経済振興部中山間政策課 副課長 畔柳 典生 氏
主事 小早川 侑 氏

参加者：額田5学区の総代会長、各学区社教委員長、各学区福祉委員長、民生委員児童委員正副会長、基幹型地域包括支援センター、福祉関係事業所（高齢者施設、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所）、岡崎市職員 計22名

その他：アンケート実施

イ アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

相談対応人数：77名 プラン作成件数：19件 終結件数：24件

(ア) 相談できる場所づくりとして「不登校・ひきこもり家族相談会」を6月と10月に開催した。

(イ) 包括支援センターや居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、民生委員等（以下支援関係者）との連携の中で、高齢者支援で関わっている世帯の子や孫がひきこもり状態にあるなどの情報を得るなど把握に努めた。

(ウ) 寄付米を民生委員児童委員を通じて直接困窮者世帯へ届けるOKフードドライブを5月に実施し、対象地域全体へのアウトリーチ、状況や把握を行った。

(エ) 本人・家族へ寄り添い、各種情報提供や事業所見学、受診同行、職業安定所、若者サポートセンター等へ適切につないでいる。本人・家族が状況を理解・納得して動き出せるタイミングを大切に支援にあたっている。また、関係機関へつないだから支援終了ということではなく、関係機関が仲間に加わったという意識でフォローしたり、本人や家族からの相談に応じている。対象者の生活全体を見て、支援関係者と課題の共有と役割分担を行っている。

(オ) 地域へのアウトリーチ活動として、学区福祉委員会が主催するサロン活動や地域住民による介護予防のための自主活動「ごまんぞく体操」等に参加し、顔の見える関係づくりの構築と共に、地域共生に向けた地域づくりのための福祉啓発や地域福祉に関する情報提供を実施した。また、北部・宮崎診療所と連携し、研修医によるミニ健康講座を実施した。その他、福祉総合相談窓口「ふくまど」に持ち込まれる課題に対し、アウトリーチなどを実施し多機関と連携して対応などを協議した。

地域活動等へのアウトリーチ	実施	延べ参加人数
サロン活動	18箇所 22回(延べ)	152名
ごまんぞく体操	15箇所 19回(延べ)	206名
認定看護師講座	1箇所 1回	29名
ひきこもり家族相談会	1箇所 2回(延べ)	3名

子ども(地域)食堂	2箇所 11回(延べ)	723名
その他(※)	4箇所 32回(延べ)	532名
合計	41箇所 87回(延べ)	1,645名

※ふれあいデイサービス、くつろぎルームたんぽぽ、子育てサロン ほかを指す

ウ 参加支援事業

相談対応人数：24名 プラン作成件数：1件 終結件数：0件

(ア) 地域での居場所づくりとして子ども食堂の立ち上げや継続支援を実施し、対象者が子ども(地域)食堂へ継続して参加できるようになっている。

(イ) 昨年度に引き続き、玄米の寄付を受付けた際に、就労支援準備事業で精米・袋詰め作業を行った。

(ウ) 今年度で2年目の地域支え合い事業では、市、社協、愛知ダイハツ、地区まちづくり団体と連携し、スーパーや病院に行くにもバスに乗れない高齢者や障がいをお持ちの方、子どもたちなどの交通弱者への支援を実施している。運転ボランティアが、ドアツードアで送迎するなど地域の移動手段の課題を解決する取り組みとなり、延べ290名の方が利用され、地域に根付いた活動となっている。

(エ) 今年度は、資源開拓として社協額田支所事業と連携し、生活支援活動事業補助金実証実験事業の立ち上げに取り組んだ。これは社協会費を原資として、制度の届かない生活に身近な困りごとに対する支援活動を補助するもので、対象者が地域の活動団体へ参加できる受け皿として、また、制度が届かない部分を地域の活動団体が解決していく取り組みとして期待している。

(オ) 上記同様社協額田支所事業と連携し、ふれあい活動事業補助金の改正を行い、学区福祉委員会のみ限定していた対象を地域の活動団体も補助対象とした。更に活動内容に子育て世代の親子が参加する活動も対象にすることで、高齢者や障がい者、子育て世代の親子等の誰もが地域で孤立しないよう、地域住民の交流・社会参加と支え合いを図る活動を支援する体制を整えた。

(5) 移動支援・買い物支援

中山間地域における移動手段や買い物の不便さの解消を目指し、移動支援車両貸出事業、ふれあいデイサービスの買い物支援事業を開始した。

また、岡崎市及び愛知ダイハツ株式会社と連携し、ダイハツ製福祉車両を無償で借り受け、下山学区地域づくり協議会と連携し、地域支え合い事業として車両貸出事業を実施した。また旧額田町内にあったタクシー会社の業務廃止の影響を考慮し地元中学生の支援として学生送迎にも活用した。

ア 移動支援・地域支え合い福祉車両稼働実績

事業名	利用 件数	利用 人数	利用目的
移動支援車両貸出	20件	41名	地域活動参加など
地域支え合い福祉車両貸出	77件	129名	受診・買い物・学生送迎など

イ ふれあいデイサービス買い物支援事業実績

	支援回数	利用者数	買物金額
年間実績	72回	464名	538,753円

※事業は毎月実施

8 子ども食堂支援事業

(1) 子ども食堂支援事業

令和6年度においては、新たに市内8箇所において子ども食堂が立ち上がり、計41箇所(令和7年3月31日現在)において子ども食堂が運営された。子ども食堂新設

に向けての相談や立ち上げから運営に向けてのサポートなど、継続的な子ども食堂運営の支援を行った。

また、既存の子ども食堂においても、運営者の日々の相談や企業からの食糧支援物資・寄附金の橋渡しなど多岐に渡るサポートを行った。

この他、市民向け講座として、子ども食堂を広く市民に知っていただくことを目的とした講座を実施。講師は市内で食堂を運営する皆様をお願いした。子ども食堂実践者向け講座としては市保健所職員を迎えて食品衛生に関する講話、日本で第一号の子ども食堂を立ち上げた講師を東京から迎え、子ども食堂の今後について、運営者と意見交換をする機会を設けた。

(2) 新設子ども食堂数 市内8箇所

(3) 市民向け講座

開催日：令和6年7月7日（日）午後1時30分～4時

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

テーマ：知って応援！あなたの街の子ども食堂

講師：加藤 弥生 氏（えほんしょくどうどうぞの店代表）

小林 和子 氏（グローアップショクドー代表）

高橋 佳子 氏（ゴーゴーショクドー代表）

本多 教江 氏（まめっ子代表：ファシリテーターとして参加）

参加者：41名

(4) 子ども食堂実践者向け講座

開催日：令和7年2月7日（金）午後1時～4時

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

テーマ：令和6年度子ども食堂実践者向け講座

説明者：岡崎市保健部保健衛生課食品衛生係 佐藤 千歳 氏

一般社団法人としび at だんだん 近藤 博子 氏

参加者：19名

9 ボランティア事業

ボランティア活動への関心を高め、参加しやすい環境づくりを目的に、福祉体験活動や、各種ボランティア講座などの福祉事業を実施した。

(1) 市民啓発事業

ア 岡崎市災害ボランティア支援センター設置・運営訓練

開催日：令和6年11月29日（土）午前9時～午後4時

会場：岡崎中央総合公園弓道場・アーチェリー場

イ 宮崎学区福祉防災講座

開催日：令和6年12月8日（日）

会場：宮崎学区市民ホーム

内容：能登半島地震や令和5年6月の大雨災害から学ぶ防災講話、防災寸劇、グループワークなど各種プログラムを通して、参加者の日頃からの防災に対する心構えと意識の向上を目指した。

参加者：34名

ウ 福祉関係紹介情報誌「ふれあいのまち岡崎」の発行

配布先 市内各市民センター、市政情報コーナーなど

部数 1,500冊

エ ボランティアセンター情報誌「neco」の発行

配布先 ボランティア活動希望者、市内の大学、地域交流センターなど

部数 隔月600部（累計3,600部）SNSを活用し、ペーパーレス化を図った。

オ ボランティア紹介ビデオや福祉ビデオ、DVD、図書、活動機材などの随時貸出

カ ホームページ、ブログ、Facebook、Xの更新、LINE など SNS を活用した情報提供
キ 企業の社会貢献（CSR）事業への協力・支援

参加企業数 10 件

出張講座実施数 14 件

(2) 養成・研修会事業

ア ボランティア講座

(ア) 災害ボランティアコーディネーター養成講座（全 3 回）

開催日：令和 6 年 11 月 9 日（土）・16 日（土）・12 月 7 日（土）

会 場：岡崎市社会福祉センター 2 階 多目的室

参加者：33 名

(イ) 災害ボランティアコーディネーターフォローアップ講座

開催日：令和 7 年 2 月 15 日（土）

会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階 第 3 活動室

参加者：21 名

(ウ) 学生ボランティア養成講座

開催日：令和 6 年 7 月 20 日（土）午後 2 時～4 時 30 分

会 場：岡崎市社会福祉センター 2 階 多目的室 2 階

参加者：計 26 名

企画・運営に参加した学生ボランティア：14 名

(エ) 視覚障がい者ガイドボランティア養成講座

開催日：令和 7 年 2 月 23 日（日）午後 1 時～4 時 30 分

会 場：岡崎市社会福祉センター 第 1 活動室

参加者：19 名

イ 支援員養成講座

(ア) 手話奉仕員養成講座（全 40 回）

期 間：令和 6 年 4 月 12 日（金）～令和 7 年 3 月 21 日（金）

会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階 第 3 活動室

修了者：17 名

(イ) 手話ステップアップ講座（全 36 回）

期 間：令和 6 年 5 月 9 日（木）～令和 7 年 1 月 23（木）

会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階 第 3 活動室

参加者：21 名

(ウ) 学生向け手話講座（全 1 回）

開催日：令和 6 年 12 月 26 日（木）

会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階 第 1 活動室

参加者：3 名

(3) ボランティアセンターの運営

ボランティア相談やボランティアコーディネートの充実のため、専任の職員をボランティアセンターに配置し、個人並びに団体、施設等からの依頼に応えるとともに、毎月 1 回のコーディネーター会議と随時ミーティングを実施し、情報の共有と課題の改善、今後の対応について話し合いを行った。また、コーディネーターがボランティア依頼元に出向き、意見や要望を聞くことで日頃のコーディネート業務やボランティア団体との対応に活かすことができた。

ア ボランティアセンター来訪者数 1,750 名

イ ボランティアセンター運営委員会

(ア) 開催日：令和 6 年 7 月 11 日（木）

会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階 第 1 活動室

内 容：令和 5 年度ボランティアセンター事業報告

被災地支援ボランティア派遣について

参加者：運営委員 17 名、当会総務課 6 名

(イ) 開催日：令和 7 年 3 月 6 日（木）

会 場：岡崎市社会福祉センター 2 階 多目的室

内 容：令和 7 年度ボランティアセンター事業計画について

参加者：運営委員 13 名、当会総務課 6 名

ウ ボランティア登録状況

項目	サークル数	人数
団体	60 団体	1,140 名
個人	—	120 名
計	60 団体	1,260 名

エ ボランティアコーディネート状況

依頼元	依頼件数	延派遣・紹介数
高齢者施設	13 件	29 件
児童福祉施設	0 件	0 件
病院・保健所	1 件	5 件
学校・地域・企業	19 件	20 件
障がい者施設	2 件	14 件
福祉団体・サークル	3 件	5 件
社協・行政	5 件	18 件
個人	3 件	4 件
その他	2 件	3 件
合計	48 件	98 件

オ ボランティア活動希望者状況

相 談 受 付 290 件(ボランティア養成講座申込者など含む)

コーディネート 135 件

カ 「福祉施設向けボランティア受け入れのポイント」リーフレットの配布

配布先：ボランティアセンターに依頼のある施設ほか

キ 第 4 次ボランティアセンター推進計画の推進

(4) 福祉教育事業

児童・生徒のボランティア活動への参加促進や、福祉への理解者の底辺を広げることが目的に、福祉教育推進事業として福祉教育推進校を指定し、福祉実践教室や福祉教育プログラムなどを通し、福祉の現状や活動の心構えなどを学ぶ機会づくりに努めた。

ア 福祉教育推進校

補 助 金 上限 30,000 円(旧額田町指定校は市からの補助)

指定期間 単年度とし継続する

指 定 校 学校数 小学校 43 校
中学校 14 校
高等学校 3 校
支援学校など 5 校(※ 1)
計 65 校

※ 1 岡崎盲学校・岡崎聾学校・岡崎特別支援学校・愛知教育大学附属特別支援学校・愛知県立みあい特別支援学校

イ 担当者会議

開催日：令和 6 年 5 月 10 日（金）午後 4 時～ 5 時

- 会 場：オンライン（Zoom）
- ウ 福祉実践教室の実施学校
実施校 小中高等学校 20 校 延べ実施日数 36 日
- エ 福祉教育プログラムの実施学校
実施校 小中高等学校 16 校 延べ実施日数 66 日（複数回開催校含む）
- オ 福祉実践教室教員向け研修会
開催日：令和 6 年 8 月 6 日（火）・9 日（金）
会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階 第 3 活動室・2 階 多目的室
内 容：児童・生徒の福祉学習がより効果的に行われるように、児童・生徒の福祉実践教室で行われている科目を教員に受講してもらい、学校で行われている福祉教育に関して指導者としての基礎知識と留意点などを学んだ。

開催日		内容	参加者数
令和 6 年 8 月 6 日(火)	午前	発達障がい・いじめ防止	8 名
	午後	体験視覚障がいに関すること (点字・視覚障がいガイド・盲導犬)	10 名
令和 6 年 8 月 9 日(金)	午前	聴覚障がいに関すること (要約筆記・手話)	5 名
	午後	高齢者疑似体験・車いす・ふくし	9 名

- カ 福祉実践教室副読本「ぼく・わたしにできること」の作成・配付
福祉実践教室の充実のため、福祉実践教室の講師団体の協力のもと、岡崎市オリジナルの副読本を製作し、実践教室に取り組む児童へ無料配付した。
- キ 福祉実践教室講師団体連絡会議
期 日：令和 7 年 3 月 13 日（木）午後 2 時～4 時
会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階 第 1 活動室
内 容：福祉実践教室・福祉教育プログラム実施状況の報告、講師団体からのアンケート結果の報告及び令和 7 年度福祉教育関連事業などの説明
- (5) 災害ボランティア
ア 災害ボランティア支援センター協定締結団体会議
令和 7 年 3 月 14 日（金）午後 2 時～3 時 30 分
イ 登録災害ボランティアコーディネーター用 Google フォームの運用
内 容：岡崎市災害ボランティア支援センターの機能を円滑にするため、Google フォームを活用し訓練を実施した。
- (6) 家庭体験事業
児童養護施設岡崎平和学園及び米山寮の児童が心身ともに健やかな成長をするための一助として、一般家庭における生活体験の機会と共に、施設と地域との連携を進めた。

10 共同募金委員会

(1) 実績

区分	実績額(円)	主な使途内容
赤い羽根募金 (一般募金)	23,597,793	学区福祉委員会への活動費、事業費 障がい児(者)団体・施設などへの補助金 保育園卒園児に卒園記念品を支給 敬老会行事への助成費 児童福祉団体・施設などへの補助金

歳末 たすけあい募金	11,630,114	就学援助対象児童・生徒へ QUO カード配付 私立保育園・幼稚園への助成費 地域福祉活動への支援
合計	35,227,907	

(2) 種別実績 単位：円

区 分 募金種別	募金実績額			参考
	赤い羽根	歳末たすけあい	募金合計	前年比較
戸別募金	16,845,198	11,236,534	28,081,732	△511,810
街頭募金	362,578	0	362,578	△37,434
法人募金	2,883,213	0	2,883,213	△94,795
学校募金	1,728,285	0	1,728,285	1,842
職域募金	866,133	0	866,133	△159,861
個人募金	0	0	0	△3,000
その他の募金	912,386	393,580	1,305,966	432,890
合計	23,597,793	11,630,114	35,227,907	△372,168

(3) 取組内容

区分	内容
戸別募金	市民向けチラシ(町内回覧)による啓発
街頭募金	ボランティア 144 名の協力により市内 12 箇所で実施
法人募金	民生委員児童委員の協力により市内企業へ訪問依頼 911 件協力
学校募金	市内の小・中・高・大学・短大・専門学校へ依頼
職域募金	企業内組織、組合などへ依頼
個人募金	0 件
その他の募金	募金箱 57 箇所設置(市内スギ薬局及びドミー各店舗ほか)

(4) 令和 6 年度第 76 回赤い羽根協賛児童・生徒作品コンクール

ア 表彰式

赤い羽根協賛児童・生徒作品コンクールにおいて優秀な成績を収められた小・中学校の児童・生徒に対して表彰式を実施した。

開催日：令和 6 年 12 月 3 日（火）午後 4 時 30 分～ 5 時

会 場：岡崎市社会福祉センター 2 階 多目的室

受賞者：愛知県共同募金会

	銀	賞	1 名（書道の部）
岡崎市共同募金委員会	金	賞	9 名（書道の部）
	金	賞	10 名（ポスター部）

イ 優秀作品展示

市内・小中学校から推薦された児童・生徒の作品展示を実施した。

期 間：令和 6 年 11 月 20 日（水）～11 月 24 日（日）
会 場：岡崎市美術館 2 階 第 4 展示室
展示数：438 点（書道 306 点、ポスター 132 点）
各小・中学校から推薦された全作品を展示
期 間：令和 6 年 12 月 3 日（火）～12 月 12 日（木）
会 場：岡崎市社会福祉センター 1～2 階

展示数：118点（書道87点、ポスター31点）
期 間：令和7年1月18日（土）～1月29日（水） 会 場：エルエルタウン 2階 特設会場 展示数：34点（書道20点、ポスター14点） エルエルタウンの近隣小・中学校から推薦された作品を展示
期 間：令和7年1月21日（土）～2月2日（日） 会 場：ウイングタウン 2階 西松屋前 展示数：44点（書道32点、ポスター12点） ウイングタウンの近隣小・中学校から推薦された作品を展示
期 間：令和7年1月24日（金）～2月2日（日） 会 場：図書館交流プラザ りぶら2階 展示数：84点（書道54点、ポスター30点） りぶらの近隣小・中学校から推薦された作品を展示
期 間：令和7年1月31日（金）～2月11日（火・祝） 会 場：エルエルタウン 2階 特設会場 展示数：36点（書道21点、ポスター15点） エルエルタウンの近隣小・中学校から推薦された作品を展示
期 間：令和7年3月5日（水）～3月18日（火） 会 場：岡崎市北部地域交流センターなごみん 1・3階 展示スペース 展示数：98点（書道71点、ポスター27点） なごみんの近隣小・中学校から推薦された作品を展示

(5) 令和7年度助成 岡崎市福祉ハッピーリンク活動助成事業

赤い羽根共同募金配分事業の一環として、市内で取り組まれる先駆的で優先度が高いと思われる福祉活動に対し助成をする事業であり、共同募金の配分先の透明化を図るため、この事業に申請する団体の審査をするにあたり、公開プレゼンテーションを実施した。助成が決定した団体には、令和7年度に助成金を交付する。

募 集 期 間：令和6年8月1日（木）～11月15日（金）

対 象 団 体：市内で活動する非営利の団体（ボランティアグループ、NPO法人、福祉団体、小・中学校、高等学校、短期大学、専修学校、大学）

対 象 事 業：地域福祉の推進の視点から地域住民を対象に、住民の福祉の向上に資する事業で、令和7年4月1日から令和8年3月31日までに実施する事業

第1次審査：書類審査（令和6年12月10日（火））

第2次審査：公開プレゼンテーション
（令和7年3月1日（土）岡崎市社会福祉センター）

最 終 審 査：助成額の査定・結果発表
（令和7年3月1日（土）岡崎市社会福祉センター）

申 請 団 体：4団体

助成決定団体：4団体

助 成 総 額：831,185円

11 家計相談支援（生活困窮者自立支援事業）

生活困窮者自立支援事業の利用者のうち、家計収支の均等が取れていないなど金銭管理に課題を抱えている世帯に対し、相談者とともに自身の家計収支についての課題を把握し、家計の再生に向けた具体的な方針を立て、相談者自ら家計管理ができるように支援を実施した。周知活動として、スクールソーシャルワーカー、子ども食堂実施者へ事業説明を実施。特例貸付フォローアップ支援の相談時、および償還指導時に案内を実施。

相談数	家計 プラン	方法				内容		
		面談	電話	訪問	関係機関連携 /協議	困窮	家計	貸付
588 件	18 件	210 件	191 件	48 件	141 件	80 件	481 件	29 件

12 各種サービス

(1) 手話通訳・要約筆記者等派遣事業

ア 手話通訳者実績(括弧内は愛知県聴覚障害者協会派遣人数)

項目	件数	項目	件数
病院・健康	292 件	団体活動	22 件
学校・教育	133 件	市・事業団	144 件
地域・ボラ	8 件	その他	23 件
就労関係	15 件	派遣件数合計	658 件
住宅関係	9 件	派遣人数合計	692 (88) 名
公的・銀行	12 件	※キャンセル 77 件は表中に含まず	

イ 要約筆記者等実績(括弧内はパソコン要約筆記者派遣件数)

項目	件数	項目	件数
病院・健康	0 件	団体活動	12 件
学校・教育	0 件	市・事業団	60 件
地域・ボラ	6 件	その他	0 件
就労関係	4 件	派遣件数合計	82 (17) 件
住宅関係	0 件	派遣人数合計	114 名
公的・銀行	0 件	※キャンセル 5 件は表中に含まず。	

(2) 声の広報発行事業

市内在住の目の不自由な方を対象に「市政だより」「市議会だより」を音訳・点訳し、CD・点字を届けた。

ア 市政だより(毎月1日号)

※広報あいち 年6回偶数月に発行 市政だよりと一緒に送付

イ 市議会だより(5月、8月、11月、12月、2月)

ウ 選挙公報

(ア) 令和6年10月6日 岡崎市長・市議員選挙

(イ) 令和6年10月27日 衆議院議員選挙

区分	市政だより	市議会だより	選挙広報
協力ボランティア	131 名	15 名	9 名
利用者	396 名	166 名	27 名

(3) おもちゃ図書館事業

心身障がい児とその家族などに、おもちゃと遊び場を提供し、同年齢の子ども達と遊ぶ機会が少ない児童にこの事業を通して同世代との遊びによる社会性の発展及び情緒性の成長を促すことを目的に事業を実施した。

開催日 毎月1回(第2土曜日 午前9時30分～12時30分)

会 場 遊びと学びの教室きらキッズ

実 績

項目	開催数	子ども	大人	合計
----	-----	-----	----	----

おもちゃ図書館きらら	10 回	141 名	136 名	277 名
きらら料理教室	4 回	45 名	16 名	61 名
クリスマス会	1 回	31 名	28 名	59 名
スタッフ・ボランティア				125 名

※スタッフ、ボランティアは各事業の事前準備の従事者数も含む

(4) 地域福祉活動備品貸出事業

岡崎市内で地域福祉活動に携わるグループや団体の支援、また地域福祉活動の活性化を図ることを目的に、岡崎市内でサロン活動などを行うグループや団体を対象として、レクリエーション用品やパソコン、プロジェクターの貸出を行った。

区分		本部	額田支所	合計
利用団体	学区福祉委員会	17 件	0 件	17 件
	ボランティアセンター登録団体	3 件	3 件	6 件
	企業・施設	5 件	0 件	5 件
	老人クラブ	7 件	0 件	7 件
	その他（個人）	1 件	1 件	2 件
利用件数合計		33 件	4 件	37 件

※本部は岡崎市社会福祉センターを指す

(5) 車いす無料貸出事業

介護保険サービスで車いすを借りることができない方、介護保険認定申請中の方、介護保険を使っていない方、短期の使用（旅行など）やケガなどで車いすが必要な方を対象に貸出を行った。

事業所	件数
岡崎市社会福祉センター	276 件
額田支所	48 件
合計	324 件

(6) 福祉車両の貸出

ア 日常的な外出時に車いすを利用する高齢者及び身体障がい者（児）が、体力の維持向上や社会的見聞を広めるための支援並びに社会参加を促進することを目的に貸出をしている。

区分		本部	額田支所	合計
利用目的	病院・福祉施設などへの送迎	62 名	46 名	108 名
	地域の行事・会議などの参加	1 名	0 名	1 名
	慶弔時	3 名	0 名	3 名
	その他	43 名	5 名	48 名
利用件数合計		109 名	51 名	160 名

※本部は岡崎市社会福祉センターを指す

イ 額田支所移動支援車両貸出事業

移動支援車両の利用は、額田地域に在住する高齢者、子ども、障がい者、低所得者などの交通弱者であって日常的に移動が困難な者などが、体力の維持向上や社会的見分などを広めるための支援並びに社会参加を促進することを目的に事業を展開した。また、岡崎市、愛知ダイハツ株式会社、下山学区地域づくり協議会と協働し、下山学区内の移動困難者に対する移動支援事業「地域支え合い福祉車両貸出」に取り組んだ。

移動支援・地域支え合い福祉車両稼働実績(再掲)

事業名	件数	人数	利用目的
移動支援車両貸出	20 件	41 名	地域活動参加など
地域支え合い福祉車両貸出	77 件	129 名	受診・買い物・学生送迎など

(7) 福祉機器リサイクル事業

不要になった福祉機器の有効利用を目的に、「譲りたいかた」と「譲り受けたいかた」の仲介を行った。(令和7年3月31日をもって事業を終了とした。)

成立件数：14 件

内容	件数	内容	件数
車いす	5 件	ポータブルトイレ	3 件
ベッド	1 件	シニアカー	1 件
歩行器	2 件	シルバーカー	2 件

(8) 善意銀行

社会福祉事業に理解のある多くの市民や団体などからの善意による金銭、物品の預託を受入れ、不慮の災害や貸付を必要とする方々に預託された善意を取り次いだ。

区分	預託		払出	
金銭 預託	前年度繰越金	11,292,699 円	給付費支出	4,496,691 円
	寄附金収入	11,870,168 円	その他支出	1,687,561 円
	災害等準備金収入	1,070,749 円		
	その他の収入	11,315 円		
	収入計	24,244,931 円	支出計	6,184,252 円
			収支差引残高	18,060,679 円
物品 預託	食品(玄米、白米)			12 件
	食品(缶詰、お菓子など)			23 件
	生理用品(紙おむつなど)			6 件
	飲料			2 件
	衣類(シャツ、下着など)			4 件
	血圧計			1 件
	車椅子			1 件

13 福祉に関する相談・支援

(1) 地域包括支援センター(地域・基幹)

地域住民の保健・福祉・医療の向上、高齢者の虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行った。また、基幹型地域包括支援センターでは、地域型包括支援センターが担当する虐待及び困難ケースの支援を実施した。

ア 対象者

(ア) 地域型 愛宕学区に在住の 65 歳以上の高齢者及び 64 歳以下の介護保険の被保険者及びその家族

(イ) 基幹型 市内の地域包括支援センター(20 箇所)

イ 相談者数

(ア) 地域型

単位：件

区分	件数	区分	件数	区分	件数
本人	825	家族	726	民生委員	42

ケアマネ	732	介護事業者	1,067	地域	55
公的機関	229	医療	267	その他	49
				合 計	3,992

(イ) 基幹型 単位：件

包括等	件数	包括等	件数	包括等	件数
中央	189	ひな	294	竜美	373
真福	208	社協	4	スクエア	279
さくらの里	288	なのはな苑	77	高年者	174
ふじ	343	さくら	407	やはぎ苑	408
北部	199	はしめ	364	南部	248
西部	126	東部	264	額田	55
むつみ	62	岡崎東	216	市役所	3
障害相談支援	54	その他	15	合 計	4,650

ウ 相談内容

(ア) 地域型 単位：件

内容	件数	内容	件数
介護保険	3,573	介護予防	27
認知症	197	在宅福祉	23
苦情	0	若年	101
生活保護	2	消費者被害	24
一体化	16	障がい	76
生活支援	210	住まい	114
医療に関すること	279	成年後見	34
虐待	4	家族課題	16
高齢者以外	8	その他	12
複合子育て	1	複合介護	0
複合生困	2	複合障害	17
		合 計	4,736

(イ) 基幹型 単位：件

内容	件数	内容	件数
虐待	1,244	困難ケース	3,044
高齢者以外家族含む	347	その他	15
		合計	4,650

(ウ) 基幹型（上記内容内訳） 単位：件

内容	件数	内 容	件数
個別支援相談	3,071	医療機関連携	98
多職種連携	198	個別ケア会議	136
市との連携	706	成年後見・日常	49
生活困窮者支援	43	同行訪問	135
家族調整	38	障害福祉	126

生活保護	5	住まい施設	37
その他	8	合 計	4,650

エ 業務内容

(ア) 地域型（担当学区：愛宕学区）

- a 総合相談支援（地域の実態把握・地域のネットワークの構築）
- b 権利擁護（成年後見制度活用支援・高齢者虐待への対応・消費者被害防止啓発）
- c 包括的・継続的ケアマネジメント支援（地域包括ケア推進・介護支援専門員支援・困難事例への対応、医療・介護等の多職種連携推進事業）
- d 介護予防ケアマネジメント（総合事業対象者の介護予防支援ケアマネジメント）
- e 介護予防支援（要支援者の介護予防支援）
- f 地域課題の把握や共有、ネットワーク構築、資源等の充実強化、高齢者等の参加促進、地域の支えあい活動の推進
- g 周知活動
- h 地域ケア会議開催
- i 出前講座・高齢者を支える家族の会開催
- j ケアマネ交流会開催
- k 認知症施策推進

(イ) 基幹型

- a 虐待・認知症等の困難事例への対応支援
- b 生活支援体制整備協議体、個別ケア会議、コミュニティケア会議の開催支援
- c 地域包括ケアシステム構築の支援
- d 人材育成の支援、多職種への指導及び助言
- e コミュニティソーシャルワーク
- f 生活支援コーディネーター（1層）
- g 就労的活動支援コーディネーター

内容	件数	内容	件数	内容	件数
打合せ	88	会議	71	研修	20
情報(収集・発信)	136	活動	184	連絡調整	379
その他	1			合計	879

(2) 介護サービス事業者連絡協議会の運営

岡崎市内をサービス提供区域としている介護サービス事業者が、市民の信頼や期待に応え得る質の高い介護サービスを提供できる基盤を整えるために、事業者相互の研鑽を進める自主的な組織の事務局を担っている。居宅介護支援事業者部会、在宅サービス事業者部会、施設サービス事業者部会、在宅サービス事業者部会（6小部会で構成）により成り立つ。介護保険制度等の情報を共有し、事業者全体のレベルアップを図るとともに、事業者相互の「交流」「研鑽」を行い、質の向上、介護医療福祉の連携を図った。

ア 幹事会

年2回開催 事業報告および決算報告、事業計画および収支予算
第2回は書面開催

イ 全体研修会2回開催（全部会対象）

(ア) 第1回

開催日：令和6年6月29日（土）

テーマ：介護現場における適切な業務のためのハラスメント対策

参加者：119名

- (イ) 第2回
開催日：令和6年11月21日（木）
テーマ：職員のメンタルヘルスを考える～家庭・介護・仕事の両立～
参加者：141名
- ウ ごちゃまぜ交流会2回開催（全部会対象）
- (ア) 第1回
開催日：令和6年9月19日（木）
テーマ：“地震BCP訓練”参加型ワーキング
参加者：150名参加
- (イ) 第2回
開催日：令和7年1月16日（木）
テーマ：多職種連携を考える・在宅ケアから地域へ
～薬剤師とケアマネジャーの両立場から見えるもの～
参加者：117名
- エ 居宅介護支援事業者部会開催支援
毎月開催（1部：関係課等からの情報提供、2部：研修）
- オ 在宅サービス事業者部会、施設サービス事業者部会事務支援

(3) 生活困窮者に対する支援

ア 緊急生活資金の貸付業務

市内に居住する、生活保護世帯及び決定を受けた世帯に対し、緊急かつ一時的に必要な生活資金の貸付及び住宅借入のための資金などの貸付を行い、生活の安定に努めた。

区分	貸付の状況		償還の状況	
生活資金	0件	0円	0件	0円
住宅借入	43件	8,787,714円	43件	8,787,714円

イ 暮らし資金の貸付業務

低所得世帯において、不測の出費が生じ、日々の生活を圧迫するような事態が起きたときに融資を行うための事業である。

貸付の状況		償還の状況	
0件	0円	0件	0円

ウ 生活福祉資金（総合支援資金）の貸付業務

低所得世帯を対象にその自立又は、経済面の立て直しの足がかりとして、自立更生の促進に資するように努め、資金の趣旨に基づいてその活用を図った。一部の資金の貸付け及び償還にあたっては、当該世帯の区域を担当する民生委員児童委員の適切な指導と協力により行った。

経済的な事情により進学之机を逃すことなく、安心して進路を検討できる一助のため、教育支援資金の広報を実施。市内20中学校全中学3年生3,845人の保護者へチラシ案内。今年度は多言語（英語、中国語、ベトナム語、スペイン語、フィリピン語）翻訳の制度チラシを作成し、学校、HP、多様性社会推進課を通じ、案内。また、外国人世帯の進路説明会に参加。他、ひとり親教育費セミナー、スクールソーシャルワーカー定例会議、定時制通信制説明会へ参加し、事業案内を実施。

今年度から特例貸付のフォローアップ支援のため、特例貸付償還猶予の延長が決定した借受人162人に対し、電話、面談、郵送にて相談勧奨、相談を開始。

本則貸付

貸付項目	決定件数	決定額
総合支援資金	0件	0円

福祉費	9 件	2,380,000 円
教育支援資金	12 件	25,876,000 円
不動産担保型生活資金	0 件	0 円
緊急小口資金	6 件	510,000 円
合計	27 件	28,766,000 円

エ はぴりんバンク・フード&グッズ事業

- (ア) 生活困窮者・世帯に対し、支援者・団体（OK フードドライブ、子ども食堂、コミュニティソーシャルワーカー、民生委員児童委員、地域包括支援センター、障がい相談支援事業所、スクールソーシャルワーカー等）を通して一時的に食料、日用品を提供することで、自立に向けた支援を実施。ひとり親生活困窮世帯等の個別支援を中心に実施。グッズの支援では、スーツレンタルの整備、就労や通院等の交通手段として自転車譲渡を実施。また、おかしきほっとサポートと連携し、はぴりんバンクを活用した就労準備前の居場所、社会参加の機会づくりを実施した。

支援先	件数等	内容
伴走型等を通じた個別支援	54 世帯	食料、衣服、日用品
民生委員、障がい支援事業所等支援者、スクールソーシャルワーカーを通じた個別支援	400 セット	米 1 kg アルファ米 2 袋
OKフードドライブ	2 回 512 セット	食料、子ども用オムツ
子ども食堂	10 回	食料・日用品
ひとり親生活困窮世帯	52 世帯×4 回	食料・日用品
生活困窮世帯支援団体	290 袋	子ども用オムツ
移動困難者支援	8 台	自転車

- (イ) ファミマフードドライブとの連携

地域の支援者からの寄付を月 2 回 7 店舗回収。SNS 発信を随時実施。当会および市ホームページにてファミマフードドライブの広報を実施。

(4) 岡崎市成年後見支援センター

認知症や知的障がい・精神障がいなどの理由で判断能力が十分でないかたが地域で安心して生活ができるよう成年後見制度の適正な利用促進のための相談・支援及び普及啓発と、法人後見受任事業、終活応援事業及び日常生活自立支援事業を一体的に実施している。

ア 主なサービス内容

相談員による相談援助、家庭裁判所への申立て手続き支援、普及啓発、法人後見事業、終活に関する相談及び情報提供を実施している。

イ 成年後見相談者数

相談支援

区分	件数
新規相談	244 件
継続相談	2,322 件
合計	2,566 件

ウ 相談対象者

区分	件数	区分	件数
認知症高齢者	1,391 件	身体障がい者	10 件
認知症以外要介護高齢者	252 件	高次脳機能障がい者	33 件
要支援・要介護以外高齢者	47 件	健常者	24 件
知的障がい者	183 件	その他	15 件
精神障がい者	611 件	合計	2,566 件

エ 相談内容

単位：件

区分	件数	区分	件数
成年後見制度概要	775 件	家庭裁判所への申立て手続き	582 件
判断能力・診断書・鑑定書	142 件	身上監護に関する事	47 件
財産管理に関する事	161 件	虐待・権利侵害	17 件
消費者被害	1 件	市長申立て関係	147 件
相続・遺産分割協議	15 件	任意後見	8 件
法人後見に関する事	10 件	成年後見人等の業務に関する事	127 件
関係者会議等に関する事	221 件	【終活応援】終身サポートに関する事	25 件
その他	288 件	合計	2,566 件

オ 支援内容

区分	件数
成年後見制度説明	507 件
資源情報（成年後見人の候補者等）の提供	61 件
専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）との調整	21 件
家庭裁判所への申立て手続き支援	393 件
成年後見人等への助言	46 件
関係者会議、調整等への出席・同行等	223 件
連絡や調整に関する事（進捗確認、情報共有確認含む）	1,194 件
終活応援事業	26 件
その他	95 件
合計	2,566 件

カ 普及啓発及び研修会の開催

(ア) 広報

- a 社協だより（9月掲載）
- b 市政だより（8月掲載）
- c コスモス成年後見サポートセンター愛知県支部主催セミナー
「備えて安心！終活セミナー！～あなたに寄り添う後見人～」にて周知活動
期 日：令和6年10月13日（日）
参加者：37名
- d なのはな苑地域包括支援センター主催コミュニティーケア会議にて周知活動
期 日：令和6年11月26日（火）
参加者：73名

(イ) 各種団体への普及啓発

福祉関係者、地域への出前講座：9回 計287名

(ウ) 市民権利擁護セミナー（市民後見人養成研修説明会）

開催日：令和6年8月31日（土）

会 場：社会福祉センター

テーマ：「地域で支える権利擁護“自分で決める”を応援しよう」

講 師：知多地域権利擁護センター 理事長 今井 友乃氏

参加者：44名

※台風接近のため中止。セミナー及び市民後見人養成研修の資料を申込者に送付。

(エ) 親族後見人フォローアップ研修

開催日：令和6年12月4日（水）

内 容：障がい者・高齢者の事例を基にしたスライド芝居

お話し交流会「親族後見人になった感想・想いを語る」

講 師：成年後見支援センター

参加者：親族後見人6名

(オ) 関係者向け権利擁護勉強会 ※障がい者基幹相談支援センターと共催

開催日：令和6年6月28日（金）

テーマ：「権利擁護事例を通して成年後見制度と虐待防止への対応を学ぶ」

講 師：日本福祉大学・人間環境大学 非常勤講師 塚本 鋭裕氏

参加者：73名

(カ) 専門職相談会の開催

弁護士会（毎月第1木曜日）年間5回開催 相談件数 11件

司法書士会（隔月第3金曜日）年間1回開催 相談件数 2件

キ 岡崎市成年後見制度利用促進協議会への参加

第1回 令和6年7月11日（木）

第2回 令和7年2月18日（火）

ク 受任調整会議（毎月 第3水曜日）計11回開催 検討ケース数 計29件

	開催日	検討件数
第1回	令和6年 4月17日	1件
第2回	令和6年 5月15日	3件
第3回	令和6年 6月19日	6件
第4回	令和6年 7月17日	3件
第5回	令和6年 8月21日	4件
第6回	令和6年 9月18日	3件
第7回	令和6年10月16日	3件
第8回	令和6年11月20日	2件
第9回	令和6年12月18日	1件
第10回	令和7年 2月19日	1件
第11回	令和7年 3月19日	2件

ケ 終活応援事業

相談件数：25件

コ 日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者のうち判断能力が不十分なかが、地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助などを行った。

(ア) 主なサービス内容

福祉のサービス利用援助、日常的な金銭の管理、日常生活の事務手続きの支援、重要な書類などの預かり

(イ) 実利用者数

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	合計
利用者数	16 名	20 名	16 名	52 名

(ウ) 相談援助件数（問合せ・相談援助件数）

事項	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	合計
初回相談(受付)	27 件	13 件	32 件	72 件
相談援助(上記以外)	1,704 件	1,336 件	1,542 件	4,582 件
合計	1,731 件	1,349 件	1,574 件	4,654 件

(エ) 終了者数

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	合計
死亡	2 名	0 名	0 名	2 名
移行	5 名	0 名	2 名	7 名
その他	0 名	1 名	2 名	3 名
合計	7 名	1 名	4 名	12 名

(5) 法人後見事業

ア 法人後見

区分	件数
新規受任	7 件
受任対象対応件数	1,877 件

イ 相談対象者（法人後見）

(ア) 類型（後見）

区分	件数
認知症	877 件
精神障がい者	248 件
知的障がい者	49 件
高次脳機能障がい者	0 件
合計	1,174 件

(イ) 類型（保佐）

区分	件数
認知症	431 件
精神障がい者	35 件
知的障がい者	149 件
高次脳機能障がい者	0 件
合計	615 件

(ウ) 類型（補助）

区分	件数
認知症	43 件
精神障がい者	49 件
知的障がい者	3 件
高次脳機能障がい者	0 件
合計	95 件

ウ 支援内容

区分	件数	区分	件数
金銭管理・金融機関手続き	501 件	福祉サービス利用・契約手続き	104 件
住居に関する手続き	77 件	行政手続き	111 件
入院・医療に関する手続き	87 件	家庭裁判所への手続き	72 件
登記に関する手続き	29 件	モニタリング	173 件
本人との連絡調整	53 件	関係者との連絡調整	335 件
関係者会議への出席	63 件	死後事務	20 件
その他	259 件	合計	1,884 件

(6) 障がい者相談支援事業

障がい児・者やその家族からの相談を受け、必要な情報提供や各種関係機関の紹介、福祉サービスの利用援助、社会資源の活用や社会生活力を高めるための支援などを総合的に行うことにより、自立と社会参加の促進を図った。

また、岡崎市から委託を受けた相談支援事業所として、担当地域内の相談支援事業所への助言や障がい者自立支援協議会への参画及び事務局業務を担った。

ア 対象者

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、難病、障がい児やその家族

イ 委託相談（計画作成相談以外の相談件数）

4,237 件（対象者数 障がい者 261 名、障がい児 40 名）

ウ 障がい福祉サービス利用計画書等作成 601 件（対象者数 254 名）

エ 児童計画相談 92 件（対象者数 51 名）

オ 地域の特定制相談支援事業所との情報交換等 4 回（3 か月に 1 回）

カ 障がい支援区分認定調査実績 39 件

キ 岡崎市障がい者自立支援協議会就労支援専門部会の運営（事務局） 年 4 回

ク 岡崎市障がい者自立支援協議会個別支援専門部会への参加（委員） 年 6 回

ケ 岡崎市自立支援協議会医療的ケア児支援専門部会への参加（委員） 年 4 回

(7) 障がい者基幹相談支援センター（障がい者虐待防止センター）

地域の相談支援事業所や関係機関が抱えている困難ケースなどの相談を受け、各種障がい種別やニーズに応じた専門的な相談支援ができるよう指導・助言や関係者会議などを行った。

その他、障がい者自立支援協議会各専門部会並びに岡崎市障がい福祉サービス等事業者等連絡会の事務局運営、相談支援事業所の資質向上を図るため市内指定特定相談支援事業所への訪問を実施した。また、相談支援従事者養成研修に伴う、インターバル実習の受け入れ、初任研修受講者向けフォローアップ研修を実施した。

障がい者虐待防止センターでは、障がい者虐待に関する相談窓口として 24 時間対応を行い、常に市と連携し情報共有しながら事実確認のための調査訪問や支援計画の検討会議などを開催した。

また、「差別解消法の理解」、「コミュニケーション条例の制定」に伴い、障がい福祉課と共催し、「差別解消法及びコミュニケーション条例講演会」と「交流会（であい・ふれあい・つながりたい）」を開催する。また、事業所向け権利擁護講演会として、成年後見支援センターと共同しての研修会の実施、施設虐待防止に関する研修会、各事業所からの依頼による「権利擁護」に関する研修を実施した。

ア 総合的・専門的な相談支援の実施

困難事例相談対応 年間件数 2,074 件（前年度：1,995 件）

イ 地域の相談支援体制の強化

(ア) 相談支援事業所訪問

訪問事業所数：12 事業所

※困難ケース対応等、個別に各事業所との協働での対応も適宜実施。

地域の相談支援事業所からの相談件数

単位：名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
委託相談	31 (15)	31 (20)	44 (19)	43 (21)	20 (14)	47 (23)	60 (29)
指定特定	9 (6)	21 (10)	8 (7)	26 (14)	47 (10)	20 (11)	30 (15)
月	11月	12月	1月	2月	3月		合計
委託相談	53 (21)	44 (23)	41 (19)	36 (18)	48 (23)		498 (245)
指定特定	47 (15)	22 (17)	20 (5)	41 (17)	28 (9)		319 (136)

※ 延べ人数(実人員)

- (イ) 委託相談支援事業所連絡会議 年間 12 回
 (ウ) 関係機関会議への出席 年間 15 回
 (エ) 個別支援会議への出席 年間 122 回
 (オ) 障がい福祉サービス等事業者連絡会の開催

全体会	1 回	代表者会議	1 回
相談支援事業所部会	5 回	就労系事業所部会	3 回
生活介護事業所部会	3 回	居宅介護事業所部会	3 回
施設系事業所部会	3 回	児童通所支援事業所部会	3 回

- (カ) 相談支援従事者養成研修への協力

a 演習講師派遣

現任研修（3日間）令和6年7月30日（火）・8月29日（木）・10月4日（金）

主任研修（2日間）令和7年1月20日（月）・1月27日（月）

b インターバル実習の受入れ

初任研修：受講者 16 名の受入れ（各人 1 回）

現任研修：受講者 9 名の受入れ（各人 2 回）

- (キ) 研修会の開催

地域福祉講座 岡崎市社会福祉協議会地域支援課との共催 開催日：令和6年8月24日（土） テーマ：アンコンシャスバイアス～無意識の偏見の秘密にせまる～ 参加者：89 名
相談支援従事者初任研修受講者フォローアップ研修 開催日：令和6年10月29日（金）参加者：15 名（初任研修受講者）

- (ク) 岡崎市障がい者自立支援協議会の運営

部会名	開催数
自立支援協議会	5 回
(1)個別支援専門部会	6 回
(2)地域移行支援専門部会	4 回
(3)就労支援専門部会	4 回
(4)こども発達支援専門部会	4 回
(5)医療的ケア児支援専門部会	4 回

(6)権利擁護支援専門部会	4 回
(7)障がい者基本計画等推進専門部会	2 回

※(1)～(5)については、市内の指定一般相談支援事業所が事務局を担い開催。

※(6)については、基幹相談支援センターが事務局を担い開催。

※(7)は岡崎市障がい福祉課が事務局を担い開催。

ウ 地域移行・地域定着の促進

地域移行支援専門部会において、可視化した課題に対して協議を重ね、当事者向けの「地域移行・地域定着事業パンフレット」作成をすることができた。

精神障害者地域移行定着推進研修に出席し、保健所が主導する「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた検討に参画した。

また、精神障がい者にも対応し他地域包括ケアシステムの構築に向けたコア会議にも出席し、構築に向けた検討を重ねた。

エ 権利擁護・虐待の防止

(ア) 虐待案件対応 年間 364 件（延べ件数）（前年度：202 件）

(イ) 虐待防止ネットワーク会議への参加 6 回

(ウ) 権利擁護講演会等の実施

a 市民向け権利擁護講演会

開催日	内容	参加者
令和 6 年 9 月 12 日 (木)	障がい者コミュニケーション条例・障害者差別解消法講演会、交流会「であい・ふれあい・つながりたい」 講師：岡崎市難聴・中途失調症の会 代表 羽田野 裕子 氏 岡崎自立生活センターぴあはうす 理事長 高橋 美絵 氏 交流会出席団体：岡崎市難聴・中途失調症の会 生活訓練事業所あい こども発達支援センター 岡崎市手をつなぐ育成会 愛知県立岡崎盲学校 岡崎自立生活センターぴあはうす	118 名

b 事業所向け権利擁護講演会

開催日	内容	参加者
令和 6 年 6 月 28 日 (金)	令和 6 年度権利擁護研修会 講義&演習：権利擁護事例を通して成年後見制度と虐待防止への対応を学ぶ 講師：日本福祉大学・人間環境大学 非常勤講師 塚本 鋭裕 氏 ※ 成年後見センターとの合同企画研修	67 名
令和 6 年 7 月 31 日 (水)	ワークブックを活用したグループワーク 講義&演習：「エピソード」からはじめよう私たちの権利擁護 講師：岡崎市自立支援協議会権利擁護支援専門部会 部会長：杉木 陽介 氏	31 名
令和 7 年 1 月 24 日 (金)	令和 6 年度 事業所向け権利擁護研修 講義&演習：事例を通して考える施設虐待 ～日々の業務について振り返り、日常業務における虐待の芽に気づく～	34 名

	講師：日本福祉大学・人間環境大学 非常勤講師 塚本 鋭裕 氏	
--	-----------------------------------	--

(エ) 研修会などの開催(講師派遣)

- a 出前講座：障がい理解&岡崎市障がい者コミュニケーション条例
令和6年6月19日(水)
- b(株)げんき虐待防止研修
令和6年7月10日(水)
- c 社会福祉法人愛恵協会職員研修
令和6年8月23日(金)
- d 社会福祉法人愛知厚生事業団 藤川の里職員研修
令和6年8月28日(水)、30日(金) ※2回実施
- e NPO 法人きらら職員権利擁護研修
令和6年9月4日(水)
- f ケアマネ交流会
令和6年10月15日(火)
- g 社会福祉法人たつき福祉会 額田の村職員権利擁護研修
令和6年11月22日(金)
- h 岡崎市民生児童委員地域福祉部会研修
令和6年11月26日(火)
- i 西部地域包括支援センター職員研修会
令和6年12月16日
- j 社会福祉法人あおい ホームワーク板屋・大樹寺職員権利擁護研修
令和6年12月27日(金)

オ 相談業務の実績

支援内容	面談等	電話	会議	関係機関	その他	合計
困難事例	181件	310件	122件	1,457件	4件	2,074件
地域移行・ 地域定着	8件	9件	4件	4件	0件	76件
虐待	50件	33件	21件	259件	1件	364件
成年後見制度	3件	1件	6件	19件	1件	30件
その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件
合計	242件	353件	153件	1,790件	6件	2,544件

(8) 住宅リフォーム事業

高齢者、障がい者などの自宅を訪問し、住宅改修に関する技術的助言、建築士による意見書の作成などを実施した。

意見書の作成件数：177件

	相談件数	訪問件数	意見書発行件数
高齢者	174件	177件	172件
障がい者	5件	5件	5件
合計	179件	182件	177件

(9) 介護者リフレッシュ事業『くつろぎルームたんぽぽ』

在宅において介護をされている介護者を対象に介護者同士の情報交換、介護者の悩みや健康相談ほか、包括支援センターと連携して介護情報の提供、民生委員との交流などを通じて日頃の悩みなどを共有し、介護する側が孤立しない支援を目的に年8回実施した。

(10) 子育てサロン『ひだまり Kids』事業

子育て中の母親の孤立の防止、育児に対する不安やストレスの軽減を図ることを目的に、豊富と形埜の2箇所で開催した。子どもたちが遊んでいる間に、子育て中の親同士の交流なども行われ、市街地より移動に時間がかかる額田地区の子育て世代の交流の場として活用した。

会場	参加者
岡崎市額田センターこもれびかん	延 90 組／200 名
形埜学区市民ホーム	延 91 組／251 名
合計	延 181 組／451 名

14 各種介護サービス

(1) 介護保険事業

居宅介護支援（ケアマネジャー）事業では、要介護認定のかたを始め、困難ケースの受け入れや、緊急時における 24 時間対応など、利用者のサービス向上に努めた。特に居宅介護支援事業所の少ない額田地区において、地域の介護保険事業を支える事業所としての立場を自覚し、ケアマネジャー業務に取り組んだ。

訪問介護事業においても、ICT 化を取り入れ業務の効率化を図りホームヘルパーの技術向上を毎月行うことで、より質の高いサービスの提供やケアサービスの適切な提供に努めた。

ア 居宅介護支援事業の状況（プラン作成状況など）

区分	件数
ケアプラン	2,398 件
予防ケアプラン	644 件
要介護認定調査件数	89 件

イ 訪問介護事業（介護保険）の状況

部 門	訪問件数	訪問回数
本 部	1,369 件	4,977 回
額田支所	491 件	2,787 回
合 計	1,860 件	7,764 回

(2) 障害者総合支援事業

障がいの特性を理解し、相手の気持ちを尊重しながら自立に向けて援助するとともに、地域で安心して暮らしていけるように関係機関と連絡を密にとり、ケアサービスを実施した。

ア 訪問介護事業（障がい）の状況

部 門	訪問件数	訪問回数
本 部	761 件	4,879 回
額田支所	68 件	477 回
合 計	829 件	5,356 回

イ 地域生活支援事業の状況

部 門	訪問件数	訪問回数
本 部	145 件	448 回
額田支所	22 件	21 回
合 計	167 件	469 回

(3) 養育支援事業

子育てに困難を抱えている家庭を訪問し、児童の養育に係る支援体制を整えた。

(4) 犯罪被害者等日常生活支援

犯罪被害者となった方に対して日常生活の支援ができる体制を整えた。

(5) 産前産後ホームヘルプサービス事業

産前産後ホームヘルプサービス事業は、出産前後の母親の心身の健康を維持するとともに、児童及びその家庭の生活の質（QOL）の向上に努めた。

訪問件数	訪問回数
115 件	453 件

(6) 研修・啓発事業

訪問介護職員への研修を計画し、年間 12 回の研修を実施し、資質・技術の向上に努めた。また、地域の方からの要望により根石学区市民ホームにて地元住民に向けた介護技術講習を実施した。

15 指定管理制度の受託

(1) 指定管理事業「岡崎市社会福祉センター」

岡崎市社会福祉センターの指定管理者として、館内活動室の貸し出し、会館管理業務を令和 3 年度より受託した。活動室は、ボランティアセンター登録団体や障がい者団体のほか、一般企業・団体等にも貸し出し（一部有料）を行った。また、1 階のボランティアセンターでは、福祉ボランティアの活動拠点として情報提供・活動のコーディネートなどを行った。

ア 利用団体数（累計）

単位：団体

	1 階				2 階		計
	第 1	第 2 A	第 2 B	第 3	多目的 A	多目的 B	
減免	402	325	253	223	242	250	1,695
有料	85	115	101	117	125	107	650
計	487	440	354	340	367	357	2,345

※表中省略文字は、減免：利用料減免者、有料：有料利用者、第 1：第 1 活動室、第 2 A：第 2 活動室 A、第 2 B：第 2 活動室 B、第 3：第 3 活動室、多目的 A：多目的室 A、多目的 B：多目的室 B となります。

イ センター運営に必要な訓練

避難訓練

実施日：令和 6 年 7 月 8 日（月）

令和 6 年 11 月 25 日（月）

内 容：初期消火訓練（消火栓体験）、避難誘導、通報訓練

(2) 障がい者などアートのセンター内展示

ア オカザえもんパラ芸術祭 2024

(ア) Part 1 オカザえもんの子どもワークショップ

a ワークショップ（創作活動）

開催日：令和 6 年 12 月 14 日（土）

会 場：岡崎市社会福祉センター 2 階 多目的室

内 容：オカザえもんと子どもたちの共同創作活動

b ワークショップ作品展

期 間：令和 6 年 12 月 18 日（水）～令和 7 年 1 月 26 日（日）

会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階～3 階通路

内 容：ワークショップで創作した作品展示

(イ) Part 2 オカザえもんの公募作品展

期 間：令和 7 年 1 月 28 日（火）～令和 7 年 3 月 9 日（日）

会 場：岡崎市社会福祉センター 1 階～3 階通路

内 容：特別支援学校（学級）の子どもと障がいのあるかたを対象とした作品展

(ウ) Part 3 オカザえものみんなの作品展

期 間：令和7年3月11日（火）～3月30日（日）

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階通路

内 容：あいちアール・ブリュット展で優秀作品に選ばれたかたの作品とオカザえものの公募作品展入賞作品を展示

(3) 指定管理事業「岡崎市ふれあいデイサービスセンター」

65歳以上で介護保険申請前のひとり暮らし高齢者、日中独居高齢者などを対象に、社会的孤立感の解消や心身機能の維持及び向上を図り介護予防に繋げることを目的とした指定管理事業「岡崎市ふれあいデイサービス事業」を受託し旧額田町内において実施した。

	開所日数	延利用者数
年間実績	243 日	1,633 名

ア ふれあいデイサービス買い物支援事業

日常的に買い物をする機会が減少しているふれあいデイサービス利用者向けに、小売店（稲葉屋）と連携し毎月、簡易な買い物コーナーをふれあいデイサービスセンター内に設け、デイサービス利用者実際に品物を手に取って買い物ができる機会を設けた。

イ ふれあいデイサービス買い物支援事業実績（再掲）

	支援回数	利用者数	買物金額
年間実績	72 回	464 名	538,753 円

※事業は毎月実施